

職業実践専門課程の基本情報について

| 学校名 | | 設置認可年月日 | 校長名 | | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|---------------------------|---------|------------------------|--|------|-----|--------|---|------|------|---------------|---|-----|-----|-------------------|---|-----|-----|
| 麻生医療福祉専門学校福岡校 | | 平成9年2月13日 | 竹口 伸一郎 | | 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2-12-29 (電話) 092-415-2294 | | | | | | | | | | | | | | |
| 設置者名 | | 設立認可年月日 | 代表者名 | | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校法人麻生塾 | | 昭和26年3月12日 | 麻生 健 | | 〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999 | | | | | | | | | | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | | 専門士 | 高度専門士 | | | | | | | | | | | | | | |
| 教育・社会福祉 | 介護福祉専門課程 | 介護福祉科 | | 平成10年文部科学大臣 告示第179号 | — | | | | | | | | | | | | | | |
| 学科の目的 | 介護福祉士受験資格取得のための指定科目履修を行い、高い専門性を有した福祉専門職の養成を行なう。また、独自の人間力向上のためのGCB教育を柱に、向上心と協調の精神をもって広く社会福祉に貢献できる人間性豊かな人材を育成する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定年月日 | 平成26年3月31日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | | | | | | | | | | | | |
| 2年 | 昼間 | 1,852時間 | 1,280時間 | 120時間 | 452時間 | 0時間 | 0時間 | | | | | | | | | | | | |
| 単位時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生徒総定員 | 生徒実員 | 留学生数(生徒実員の内) | | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | | | | | | | | | | | | |
| 100人 | 29人 | 1 | | 4人 | 15人 | 19人 | | | | | | | | | | | | | |
| 学期制度 | ■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日 | | | 成績評価 | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各期毎4段階にて評価 担当教員が定期試験、出席等の状況をもとに評価 | | | | | | | | | | | | | | |
| 長期休み | ■夏季:7月30日～8月28日 ■冬季:12月24日～1月9日 ■春季:2月21日～4月9日 | | | 卒業・進級条件 | ア.指定科目全ての修得 イ.学年の出席率90%以上 ウ.学生としてふさわしい生活態度 | | | | | | | | | | | | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ガイダンスの実施。学科責任者との面談、三者面談の実施。 | | | 課外活動 | ■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有 | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職等の状況※2 | ■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 介護・社会福祉分野 ■就職指導内容 1年次後期より就職に関する実務を総合的に学ぶ「就職実務」を開講。また、就職研修を実施し、次年度就職年次に進級する上での心構え等を学ぶ。更に独自の面接指導を合格するまで実施する。 ■卒業生数 25 人 ■就職希望者数 25 人 ■就職者数 25 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100.0 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成 28 年度卒業生に関する 平成29年5月1日 時点の情報) | | | 主な学修成果(資格・検定等)※3 | ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護福祉士国家試験受験資格</td> <td>②</td> <td>25人</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>レクリエーション・インストラクター</td> <td>①</td> <td>25人</td> <td>25人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 特になし | | | 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | 介護福祉士国家試験受験資格 | ② | 25人 | 25人 | レクリエーション・インストラクター | ① | 25人 | 25人 |
| 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 介護福祉士国家試験受験資格 | ② | 25人 | 25人 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| レクリエーション・インストラクター | ① | 25人 | 25人 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中途退学の現状 | ■中途退学者 2 名 ■中退率 4.3 % 平成28年4月1日時点において、在学者46名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者44名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路の変更、健康問題、経済的問題など ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による要因を抱えた学生に対する個別面談。学生の情報を教員間で共有しながらの検討会の実施。学科責任者や保護者を含めた面談。ガイダンス記録による報告。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経済的支援制度 | ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する。 東日本大震災により被災した進学が困難になった者を対象に入学金・校納金・寮費を卒業まで全額免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第三者による学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: 無 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 当該学科のホームページURL | URL: http://www.asojuku.ac.jp/amfc/subject/care/ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

厚生労働大臣指定 介護福祉士養成専門課程として、介護福祉業界が求める、より現場の実践に即した技術を修得することを中心としたカリキュラムを編成している。特に実習においては、厚生労働省による指定規則に則った要件を満たす施設および指導者と連携・調整を図りながら、常に効果的な実践教育を行っている。また、実習終了後には、実習施設の指導者と意見交換を交わして本校教育にフィードバックし、科目編成に活かしている。その他、就職先に対して実施する「お客様アンケート」により、現場のニーズを把握して、求められる介護福祉人材の育成を目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

専門性に関する動向や方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。

委員会は、次の事項を審議し、会議の結果をカリキュラム会議に報告するものとする。

- ①カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- ②各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- ③教科書・教材の選定に関する事項
- ④その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|--------|-------------------------------|---------------|----|
| 大庭 欣二 | 社会福祉法人 シティ・ケアサービス 管理本部 本部長 | 平成29年4月～30年3月 | ③ |
| 江川 順一 | 特別養護老人ホーム 月隈愛心の丘 施設長 | 平成29年4月～30年3月 | ③ |
| 桑原 由美子 | NPO法人 発達障がい者就労支援 ゆあしっぷ 理事長 | 平成29年4月～30年3月 | ③ |
| 武田 聡 | NPO法人 木もれ日 カフェヒュッテ 施設長 | 平成29年4月～30年3月 | ③ |
| 占部 尊士 | 西九州大学短期大学部 准教授 | 平成29年4月～30年3月 | ② |
| 松尾 智子 | 公益社団法人 福岡県介護福祉士会 研修委員 | 平成29年4月～30年3月 | ① |
| 大山 和宏 | 福岡県精神保健福祉士協会 会長 | 平成29年4月～30年3月 | ① |
| 竹口 伸一郎 | 麻生医療福祉専門学校福岡校 校長 | 平成29年4月～30年3月 | |
| 上野 慎輔 | 麻生医療福祉専門学校福岡校 校長代行 | 平成29年4月～30年3月 | |
| 山下 和美 | 麻生医療福祉専門学校福岡校 校長代行補佐 | 平成29年4月～30年3月 | |
| 前田 浩明 | 麻生医療福祉専門学校福岡校 副主任 | 平成29年4月～30年3月 | |
| 案納 賀世子 | 麻生医療福祉専門学校福岡校 ソーシャルワーカー科 リーダー | 平成29年4月～30年3月 | |
| 川原 ゆり | 麻生医療福祉専門学校福岡校 社会福祉科 リーダー | 平成29年4月～30年3月 | |
| 小副川 賢治 | 麻生医療福祉専門学校福岡校 福祉心理学科 リーダー | 平成29年4月～30年3月 | |

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間開催数)3回

(開催日時)

- 第1回 平成28年6月25日(土)13:00～14:00
- 第2回 平成28年11月11日(金)16:00～18:00
- 第3回 平成29年3月3日(金)16:00～18:00

(開催日時 予定)

- 第1回 平成29年6月24日(土)13:00～14:00
- 第2回 平成29年11月10日(金)16:00～18:00
- 第3回 平成30年3月2日(金)16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

留学生支援についての具体的な教育活動や入学から卒業までの間の学校生活やアルバイト等の支援について、本学科提案資料に基づいて助言及び指導をいただいた。また、個別に支援が必要な学生のサポート態勢について、「行動分析」の手法を用いた方法について提案いただいた。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本学科では、介護福祉実習452時間履修することから、平素より実習施設との有機的な連携をもとに、カリキュラムを編成している。また、必要に応じて福祉施設の介護及び社会福祉専門職を招いての講義、施設利用者(当事者)の方の講義などをカリキュラムに組み込んでいる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

実習実施前に、施設担当教員と実習指導者が打ち合わせを行い、実習計画や内容、実習概要について協議・調整を行う。実習期間中は教員が巡回及び帰校日指導を行い、実習の進捗状況を確認、個別指導を強化する。実習終了後は学内で報告会を開催。その際実習指導者に参加していただき、実習での学びや気づきを深化させる。また、年に1度実習指導者と教員とで意見交換会(バイザー会議)を開催し、連携強化を図っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 |
|---------|---|---|
| 介護実習Ⅰ-A | 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。 | シティケア博多 おあしす長丘 なのみ工芸 アップルハート金山デイサービスセンター わくわくランド 他 |
| 介護実習Ⅰ-B | 実習ⅠAの延長として、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。また、次年度に実施する実習Ⅱ(介護過程の展開)に向けての課題を見つける。 | シティケア博多 おあしす長丘 なのみ工芸 アップルハート金山デイサービスセンター わくわくランド 他 |
| 介護実習Ⅱ | 介護福祉実践のための基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に使う必要があることを学習する。さらに、実際に施設や事業所のカンファレンス等に参加し、介護をする上で必要な職種の役割について学ぶことで、生活支援チームの一員として介護福祉士の役割について理解する。 | 光薫寺ビハーク ちづる園 シティケア博多 シティケア長住 月隈愛心の丘 他 |
| 介護実習Ⅲ | 個別ケアを行なうために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習する。 | 光薫寺ビハーク ちづる園 シティケア博多 シティケア長住 月隈愛心の丘 他 |
| 在宅介護実習 | 利用者や家族の生活状況、利用者の全体像を理解し、介護福祉士のかかわり方について学ぶとともに、在宅訪問時の基本的知識と技術・態度について理解を深める。 | 大野城市社会福祉協議会 ケアステーションにしこう ケアステーションにしこう博多 ケアステーションにしこう城南 飯塚市社会福祉協議会 他 |

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

専門分野に関しては、介護福祉教育学会及び日本介護福祉学会に正会員として加盟しており、毎年行われる学会や諸発表会には必ず参加する。また、教員による学会発表も経験や力量に応じて行う。

また、日本地域福祉学会、日本社会福祉学会、ハンセン病市民学会等に加盟する教員が複数おり、その専門領域で深めた見識を他教員と共有する勉強会も学内で実施する。

授業および学生に対する指導力等の修得・向上に関しても、本校の教職員研修規定に則って、教員の経験・スキル・目標に応じた研修が、組織的かつ計画的に行われている。

なお、これらの研修に参加した教員は、研修を通じて修得した知識・技能等について、他教員と共有するために学内での勉強会において随時発表する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

日本介護福祉士養成施設協会 定時総会 平成28年5月27日

日本介護福祉士養成施設協会 九州ブロック研修会 平成28年10月14日～15日

②指導力の修得・向上のための研修等

ア.「インプレッショントレーニング®」 平成29年2月

【概要】印象力向上を目的として、教育現場や対外的な活動の場で活用するためのインプレッショントレーナーによる研修。

イ. 学生支援研修 平成29年2月

【概要】共感的理解からはじまる支援の実際を中心に、生徒支援に定評のある高等学校の校長による研修。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

日本介護福祉士養成施設協会 全国教員研修 平成29年11月19日～21日

日本介護福祉士養成施設協会 九州ブロック研修会 平成29年9月21日～22日

②指導力の修得・向上のための研修等

ア. 退学防止研修:平成29年8月21日

イ. 教育コーチング研修:平成29年8月22日

ウ. 教員フォローアップ研修:平成29年8月24日

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|-------------|---------------------------------------|
| (1)教育理念・目標 | 建学の精神、法人の理念、教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他 |
| (2)学校運営 | 教員組織の整備、運営会議での共有、防災・非常時対策、コンプライアンス |
| (3)教育活動 | 業界の人材ニーズに沿った教育、授業評価による改善、付加的教育、他 |
| (4)学修成果 | 教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、学生の就職活動・卒業率 |
| (5)学生支援 | 担任他との定期面談、有資格者との就職相談・生活相談、奨学金、卒業生支援 |
| (6)教育環境 | 教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他 |
| (7)学生の受入れ募集 | ADの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試 |
| (8)財務 | 財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開 |
| (9)法令等の遵守 | 規程通りの運営、個人情報保護、ハラスメント防止、学内規程の整備 |

| | |
|---------------|-------------------------------|
| (10)社会貢献・地域貢献 | 社会的活動の推進・実施、公開講座、企業・地域・行政との連携 |
| (11)国際交流 | 留学生の受入れ・支援 |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

卒業生及び施設等委員より、福祉人材の確保と卒業後の離職防止に向けた取り組みについての示唆があり、法人全体の組織としてよりも、学校単位・学科単位での取り組みに期待しているとの意見が挙げられた。福祉人材の不足は、福祉を目指す本校学生数の減少とも密接に繋がっており、企業や地域、職能団体とのつながりを強めていく方向性を共有することができた。学外の委員より、客観的な視点で評価をもらい、改善に向けて取り組む意義について教職員で共通認識を持つことができる。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|--------|--------------------------|-----------------|-------|
| 玉ノ井 敏子 | (福)まごころ会 あゆみらい保育園 園長 | 平成29年4月～平成31年3月 | 企業等委員 |
| 渡辺 裕子 | (福)宰府福祉会 すみれ園 園長 | 平成29年4月～平成31年3月 | 企業等委員 |
| 桑原 由美子 | (NPO)発達障がい者就労支援ゆあしっぷ 理事長 | 平成29年4月～平成31年3月 | 企業等委員 |
| 武田 聡 | (福)福岡愛心の丘 月隈愛心の丘 施設長 | 平成29年4月～平成31年3月 | 企業等委員 |
| 江川 順一 | 福岡福祉向上委員会 代表 | 平成29年4月～平成31年3月 | 企業等委員 |
| 大庭 欣二 | (NPO)木もれ日 カフェヒュッテ 施設長 | 平成29年4月～平成31年3月 | 企業等委員 |
| 占部 尊士 | 西九州大学短期大学部 准教授 | 平成29年4月～平成31年3月 | その他 |
| 松尾 智子 | (公社)福岡県介護福祉士会 研修委員 | 平成29年4月～平成31年3月 | その他 |
| 大山 和宏 | 福岡県精神保健福祉士協会 会長 | 平成29年4月～平成31年3月 | その他 |
| 潮田 大介 | (有)ケンルック 事務長 | 平成29年4月～平成31年3月 | 企業等委員 |
| 副島 和代 | そえじま内科クリニック 事務長 | 平成29年4月～平成31年3月 | 企業等委員 |
| 井上 将彦 | (医)聖峰会 マリン病院 事務次長 | 平成29年4月～平成31年3月 | 企業等委員 |
| 小西 英樹 | 公立学校共済組合 九州中央病院 事務部長 | 平成29年4月～平成31年3月 | 企業等委員 |
| 池田 典生 | (一財)日本医療教育財団 福岡支部長 | 平成29年4月～平成31年3月 | その他 |
| 熊谷 智彦 | 久留米学園高等学校 校長 | 平成28年4月～平成30年3月 | 高校関係者 |
| 高田 照幸 | 株式会社 たかた商会 代表取締役 | 平成29年4月～平成31年3月 | 地域住民 |
| 中島 文香 | こども未来学科 保護者 | 平成28年4月～平成30年3月 | PTA |
| 野上 祐子 | 社会福祉科 保護者 | 平成28年4月～平成30年3月 | PTA |
| 蒲池 桂子 | 福祉心理学科 保護者 | 平成28年4月～平成30年3月 | PTA |
| 尾下 千賀子 | ソーシャルワーカー科 保護者 | 平成28年4月～平成30年3月 | PTA |
| 木下 典子 | 医療秘書科 保護者 | 平成29年4月～平成31年3月 | PTA |
| 塚本 のり子 | 医療情報科 保護者 | 平成29年4月～平成31年3月 | PTA |
| 所崎 あすか | 診療情報管理士科 保護者 | 平成29年4月～平成31年3月 | PTA |
| 眞島 顕弥 | こども未来学科 卒業生 | 平成29年4月～平成31年3月 | 卒業生 |
| 宮井 浩志 | 社会福祉科 卒業生 | 平成29年4月～平成31年3月 | 卒業生 |
| 児玉 諒 | 心理カウンセラー科 卒業生 | 平成29年4月～平成31年3月 | 卒業生 |
| 池上 幸子 | 介護福祉科 卒業生 | 平成29年4月～平成31年3月 | 卒業生 |
| 山下 朋子 | ソーシャルワーカー科 卒業生 | 平成29年4月～平成31年3月 | 卒業生 |
| 大本 葉 | 医療秘書科 卒業生 | 平成29年4月～平成31年3月 | 卒業生 |

| | | | |
|-------|--------------|-----------------|-----|
| 庄崎 綾乃 | 医療情報科 卒業生 | 平成29年4月～平成31年3月 | 卒業生 |
| 中井 志帆 | 診療情報管理士科 卒業生 | 平成29年4月～平成31年3月 | 卒業生 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ 毎年9月)

URL:<http://www.asoiuku.ac.jp/disclosure/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|-------------------|-------------------------------------|
| (1)学校の概要、目標及び計画 | 学校法人の沿革、教育の目標、学則、諸規程 |
| (2)各学科等の教育 | 学科の教育方針、年次別目標、目標資格、カリキュラム、進級・卒業要件、他 |
| (3)教職員 | 教員一覧、専任・兼任教員数 |
| (4)キャリア教育・実践的職業教育 | グローバルシティズンベシック、インターンシップ、教育課程編成委員会 |
| (5)様々な教育活動・教育環境 | 学園祭、ボランティア活動、クラブ活動 |
| (6)学生の生活支援 | 臨床心理士による学生相談室、ハラスメント相談、留学生支援、障がい者支援 |
| (7)学生納付金・修学支援 | 金額・納付時期、分割納入制度、授業料減免、奨学金、被災地支援 |
| (8)学校の財務 | 貸借対照表、収支計算書、監査報告書 |
| (9)学校評価 | 自己点検・評価、学校関係者評価 |
| (10)国際連携の状況 | |
| (11)その他 | |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

パンフレット、募集要項、学生便覧、Webサイト

URL:<http://www.asoiuku.ac.jp/amfc/>

授業科目等の概要

| (介護福祉専門課程 介護福祉科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|------|------|----------------|---|---------|----------|-------------|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 人間の尊厳と自立 | 「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。 | 1前 | 30 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 人間関係とコミュニケーション | 介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。 | 1前 | 30 | | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | レクリエーション | レクリエーション活動の社会的意義を理解させ、福祉の現場で実践できる能力を養う。 | 1通 | 60 | | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 介護福祉総論 | 介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を理解し、介護実践の基本的姿勢についてノーマライゼーションやICF、介護の倫理を通して理解する。 | 1通 | 60 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 介護福祉各論Ⅰ | 介護実践は介護を必要とする人を“生活をする人”として受け止め、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、個別性を大切にすることなどを学ぶことが必要であり、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深める。 | 1通 | 60 | | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | コミュニケーション技術Ⅰ | 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは他職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。 | 1前 | 30 | | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 生活支援技術・基本Ⅰ | 尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。 | 1通 | 90 | | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|------------|---|----|----|--|---|---|--|---|---|---|--|--|--|--|--|--|
| ○ | | 生活支援技術・応用Ⅰ | 利用者個人の尊厳を保持しながら利用者が主体的に生活できるよう支援する視点を学ぶ。 | 1後 | 30 | | ○ | △ | | ○ | ○ | | | | | | | |
| ○ | | 介護過程総論 | ①介護過程の意義を理解し、生活支援の課題や目標をとらえることができる。②他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開することができる。③介護計画の立案により、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。 | 1後 | 30 | | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | | |
| ○ | | 介護過程各論Ⅰ | ①生活場面の身近な事例を通して、介護過程を理解する。②介護実践場面の事例を通して介護過程の実際を知る。 | 1後 | 60 | | ○ | △ | | ○ | ○ | | | | | | | |
| ○ | | 介護総合演習Ⅰ | ①介護実習に向けての心構え、予備知識、動機付けなどを行う。②実習後に十分な振り返りを行い、より効果的な実習を行えるようにする。 | 1通 | 60 | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| ○ | | 発達と老化の理解 | ①介護実践に必要な知識として、からだのしくみとはたらきについての知識を養うとともに、人間の成長と発達についての理解を深める②発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を学ぶ。③一般的な病気及び高齢期に特徴的な病気や症状と対応について学ぶ。 | 1通 | 60 | | ○ | | | | ○ | ○ | | | | | | |
| ○ | | 認知症の理解 | ①医学的側面から見た認知症に関する基礎知識を習得する。②認知症に伴うこころとからだの変化と特徴的な心理行動、及び対応について学ぶ。③本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。 | 1通 | 60 | | ○ | | | | ○ | ○ | | | | | | |
| ○ | | 障害の理解Ⅰ | 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解する。 | 1後 | 30 | | ○ | | | | ○ | ○ | | | | | | |
| ○ | | こころのしくみ | ①こころの面から利用者の状態を見て、その要因の根拠となる知識について学ぶ。②こころとからだは相互に影響しあい、意欲や行動に影響を及ぼすことを学習する。 | 1前 | 30 | | ○ | | | | ○ | ○ | | | | | | |
| ○ | | からだのしくみⅠ | 介護技術の根拠となる人体の構造や機能について学ぶ。 | 1通 | 60 | | ○ | | | | ○ | ○ | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|--|--------------|--|----|----|--|--|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
| ○ | | | 介護実習Ⅰ-A | 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。 | 1前 | 40 | | | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| ○ | | | 介護実習Ⅰ-B | 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。 | 1後 | 80 | | | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| ○ | | | ケア・コミュニケーション | 介護福祉士として、医療福祉の現場で仕事をするうえでのコミュニケーションの役割を学ぶとともに、対人援助を行うために必要なホスピタリティについて考える。また、コーチングやアサーティブなコミュニケーションを通して、自己開示の重要性についても理解する。 | 2後 | 30 | | | ○ | △ | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | 社会の理解 | 人と社会の関係や社会システムを理解し、現代社会の様相を捉える。また、種々の社会問題について理解する。 | 2通 | 60 | | | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | ヒューマンサービス | 介護福祉士として。対人援助を行なう上での必要な理論とともに、演習を通して実践力を身につけ、実践に役立つ行動がとれるようになる。 | 1後 | 30 | | | ○ | △ | | ○ | △ | | | ○ | |
| ○ | | | 介護福祉各論Ⅱ | 各論Ⅰを踏まえたうえで、さらにケアマネジメントや職業、リスクマネジメント、そして介護従事者の健康管理などについて学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指す。 | 2通 | 60 | | | ○ | △ | | ○ | | | ○ | | |
| ○ | | | コミュニケーション技術Ⅱ | ①様々な障害を持つ人に対して、障害特性に応じたコミュニケーションの方法を習得する。②介護におけるチームコミュニケーションの意義と方法を習得する。 | 2前 | 30 | | | ○ | △ | | ○ | | | ○ | | |
| ○ | | | 生活と住環境 | 介護を必要とする人がどのような状態であっても、生きていることを実感でき、その人らしく生きるための生活環境づくりをすることで生活の楽しさや生活の支障の解決について分かち合うことができる。 | 2前 | 20 | | | ○ | | | ○ | | | | ○ | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|------------|---|----|-----|--|---|---|---|---|---|--|---|---|---|---|---|---|
| ○ | | 家庭生活 | 介護を必要とする人がどのような状態であっても、生きていることを実感でき、その人らしく生きるための生活環境づくりをすることで生活の楽しさや生活の支障の解決について分かち合うことができる。 | 2後 | 40 | | ○ | △ | ○ | | | | | | | | | |
| ○ | | 生活支援技術・基本Ⅱ | 基本Ⅰをふまえて、生活支援にICFの視点にもとづいた利用者の生活支援ができるようになることをめざす。そのために必要な、介護技術・援助方法の習得をめざす。 | 2後 | 30 | | ○ | △ | ○ | | | | | | | | | |
| ○ | | 生活支援技術・応用Ⅱ | 障害の形態や状況に応じて、利用者のニーズに応えられる介護支援を行なえるようになる。 | 2通 | 90 | | ○ | △ | ○ | | | | | | | | | |
| ○ | | 介護過程各論Ⅱ | ①実習体験の事例を通して、介護過程を理解する。②介護過程を通して、チームアプローチの重要性を理解する。 | 2通 | 60 | | ○ | △ | ○ | | | | | | | | | |
| ○ | | 介護総合演習Ⅱ | ①これまで学んだ知識や技術を統合して、実際場面に適用できる応用力・判断力を身につける。②実習後に十分な振り返りを行い、より効果的な実習を行えるようにする。 | 2通 | 60 | | | | ○ | | | | | | | | | |
| ○ | | 障害の理解Ⅱ | 障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。 | 2前 | 30 | | ○ | | | | | | | | | | | |
| ○ | | からだのしくみⅡ | Ⅰをふまえ、介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。 | 2前 | 30 | | ○ | | | | | | | | | | | |
| ○ | | 在宅介護実習 | ①在宅で生活する方の、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、生活の場における個別ケアの実際を学ぶ。②他職種協働や関係機関との連携を通じてチームケアの重要性を体験する。 | 2通 | 12 | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | 介護実習Ⅱ | 介護実践のための基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に使う必要があることを学習する。さらに実際に施設や事業所のカンファレンス等に参加し、介護をする上で必要な職種の役割について学ぶことで、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する | 2前 | 160 | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|----|--|--|-------|---|---------------|-----|--|---|---|---|---|---|---|---|
| ○ | | | 介護実習Ⅲ | 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。 | 2 後 | 160 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | | 医療的ケア | 喀痰吸引・経管栄養の定義および手技等が理解でき、その対応に必要な人間の尊厳や利用者理解を知ること、介護福祉士としての役割を学ぶ。 | 2 通 | 50 | | ○ | △ | ○ | ○ | △ | | |
| 合計 | | | | 35科目 | 1,852単位時間(単位) | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|---|----------|-----|
| <p>(卒業要件) 履修すべき科目及び実習に係る出席時間数が指定規則に定める時間数に満たないものについては、当該科目に履修認定をしない。 最終学年の終了時において、履修認定を受けられない科目が2科目以下の場合には、卒業を延期する。この場合当該科目を次年度に再履修し、履修認定を受けた後卒業を認める。</p> <p>(履修方法) 科目の履修、単位の認定は学科試験、実習評価及び日常の学習状況をもって行なう。 学科試験は定期試験及び随時試験とし、実習の評価は、実習評価基準に基づき行なう。 出席時間が所定時間の3分の2(但し、介護実習については100%)に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。 学習の評価は各科目について100点満点とし、60点以上を合格点とする。 学習の評価が合格点に満たない者は、授業科目について再試験を受ける事ができ、又実習については補習を行い、再評価を受ける事ができる。 疾病その他、やむを得ない理由により試験及び実習を終了しなかった者は追試験及び補習を受けることができる。</p> | 1学年の学期区分 | 2期 |
| | 1学期の授業期間 | 15週 |